

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400342		
法人名	有限会社ドリームサトウ		
事業所名	グループホーム もみじの里		
所在地	群馬県富岡市妙義町上高田660－1		
自己評価作成日	令和8年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和8年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、日本三大奇勝の一つに数えられる妙義山の東に位置し、四季折々の草花や木々に囲まれ、自然豊かな環境にあります。玄關は日当たりが良くソファもあるので、利用者は日光浴をしながら外の景色を楽しんでいます。また、車の音も小さく騒音はないので、静かで穏やかに過ごせると入居者や家族の方々に大変喜ばれています。コロナやインフルエンザ等の感染症の影響がまだ色濃く続いているので、ドライブやボランティアの慰問は、利用者の体調や時機をみてになっておりますが、童謡を歌ったり昔話を語り合ったりしながら思い出に浸ることや、おやつ作りを一緒に行うことで、笑顔や楽しさを増やしています。また、先に述べたレクリエーションが十分にできない分、ゆっくりと入浴していただく時間を設け、そこでも昔話や本人の希望などを聞いて、一人ひとりに寄り添った介助ができるようにしています。現在は80～90代の利用者が多いので、昔懐かしいおつきりこみやすいとん、おやきなどを提供したり、地域の方やご家族からいただいた採れたての野菜をふんだんに使用した料理をその人の好みや体調、食事形態に合わせて3食手作りにしています。健康管理においては、月1回の往診に加え、近隣の病院や訪問看護、事業所の看護師が医師と連携して、健康状態を定期的に確認しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者と職員が共に笑顔で過ごし、地域の方々が自然と足を運ぶような温かみのある施設を目指す」を理念に掲げ、職員は利用者の生活歴から話題を見つけて会話をを行い、利用者の表情をみながら笑顔を引き出せるようにしている。開設者が長年暮らしてきた地域に恩を返すという思いで開設し、地域とのふれあいを大切にしてきた経緯から、現在も地域の方が来訪したり、地域の慰問を多く受け入れて、利用者の楽しみになっている。また、地域の防災訓練に参加する事で、地元の消防団が当事業所の避難訓練に参加する等、相互協力体制がある。手作りの食事を提供することで、テレビや広告の情報をきっかけとした利用者が望むメニューの提供につながっている。職員が薬の副作用について学び、「ドラックロック」の認識が高め、必要以上の薬は出さないよう医師と連携し、看取りは生活支援の延長と捉えて、安らかな終末期を送れるよう、職員は看護師、医師と連携をとっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を申し送り時や会議の時に再確認し、利用者と職員が共に笑顔で落ち着いた生活が送れるように努めている。また、ホール内にも掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。	理念を確認できる場所に掲げ、「利用者と職員が共に笑顔で過ごし」の理念を意識しながら、利用者に接している。定期的な会議、毎日の申し送り時や、職員同士が時間のある時に、話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内で感染症が蔓延し始めた時期には控えているが、今年度はウクレレ、八木節、ハーモニカ等慰問に来ていただき、利用者と交流の場を設けた。演奏者が利用者に語りかけてくれ、笑顔で楽しむ方や涙する方もいた。様子を見ながら機会を増やしていく考えている。	妙義地域づくりセンターなど地域の場に事業所から出向いて行くことで、ボランティアの紹介を受けたり、防災訓練に参加してもらったり、地域との繋がりを開設当初から大切にしてきたことで、地域の方々が気軽に立ち寄り、野菜などを届けてくれるつきあいがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話相談や問い合わせ等がある際に、認知症の周辺症状等で心配や不安なことがある時は、丁寧に話を聞き、相手が少しでも安心できるように努めている。また、「分からないことや、何時でもいいので気兼ねなく相談してください。」と伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族には、利用者のホームでの生活状況を面談時やメール、写真等で報告している。そのやりとりの中で、家族の意見や希望を聞き、それを職員間で共有し、可能な範囲で反映できるようにしている。日曜開催を試みている。参加できない方には、書面にて結果をお知らせしている。家族の方や民生委員の方の意見やアドバイスを聞き、ボランティアへの声かけやレク等に反映している。	運営推進会議には、家族、区長、民生委員、市職員などが参加し、意見交換が行われている。そうしたなか、裏にある木の伐採、他施設でのレクリエーションの紹介、小学生の慰問のお願い等、サービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	富岡・甘楽地域施設情報システムに空き室情報をこまめに載せると共に、市町村の窓口に出向く際、事業所の空き室情報や職員の体制の現状などを伝え、相談している。その際、意見や希望を述べ、助言や指導を仰いでいる。書類や介護保険更新書類を持参し、協力関係を築くようにしている。	市からの研修案内に、職員が参加したり、空き情報を知らせて、入居に繋がったりしている。市に訪問して、更新申請など必要な手続きや、介護保険制度などの助言を受けることもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア宣言し、玄関にその内容を掲示している。申し送り時や会議、研修の時に、職員全体が身体拘束の意義を理解した上で、身体拘束しないケアにあたれるよう、日頃から話し合い、その方法を模索している。	定期的に委員会を開催し、しないケアに取り組んでいる。スピーチロックは、職員同士で確認している。薬について学び、医師と相談して眠剤など必要以上に服薬させないようにドラックロックにならないようにしている。利用者別に動きを知らせるセンサーは、音色の違う物を設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学びを深めると共に、職員全体が言葉遣いにも配慮し、行動言動を含めた虐待を起こさない施設になるよう取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員それぞれが学ぶ機会を持って関係者と話し合い、必要な人が必要な制度を活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時文章を渡し、それに沿って口頭でも読み上げ説明を行い、本人及び家族に理解していただき、納得の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払いや面会に訪れた際に利用者の様子を伝え、意見や要望等を聞いている。不満や苦情、デリケートな話がある場合には、落ち着いた環境で丁寧に詳しく聞き、管理者と職員が話し合い、今後の運営に反映させている。	月1回家族が支払いに来所した時に、普段の様子を知らせたり、行事の様子を写真を送信したりして、意見・要望を聞くこともしている。おむつ代について意見があった時等には、個別に理解して頂けるようゆっくり丁寧に話をするようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り時や休憩時を利用して、職員から意見や要望を出してもらい、話し合いをし解決している。又、申し送りノートやLINEを活用して、職員全体が共有できるようにしている。	管理者は現場にも関わっているため、常に職員の表情を見ながら、相談しやすい環境を整えている。またグループLINEを活用して、個々の意見も聞ける体制も整えている。季節のイベントやケア方法など職員の意見を聞き話し合うことで、職員のやりがいに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段からつぶさに職員とコミュニケーションをとり、希望や考え方を聞くようにしている。代表者も内勤に入り、現状把握に努めている。向上心を持って働くことができるような環境や条件を整えられるように試行錯誤している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議では、テーマを基に勉強会を行うようにしている。外部研修を受ける機会を確保するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修会に参加して、情報交換等を通じて、サービス向上に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は、新しい環境に不安や心細さを感じている。親身になって接することや、家族に記入していただいた利用者のアセスメント記録をもとに、利用者の過去に触れた話をするなどで、その不安が少しでも軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、寄り添いながら、いつでも快く対応できるような関係作りに努めている。ショートメールで普段の様子を伝え、いつでも連絡を取れる体制もとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が一番必要としている支援を見極め、様々な角度からのサービス利用も紹介し、ご自身に決断していただくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の楽しみや趣味、思い出など、日々の生活を通して、喜怒哀楽を共有できるような関係を築いている。日常的に、互いが「ありがとう」の言葉を多用している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の生活の様子や健康状態、心配事などを電話やショートメール、面会時に報告し、協力を仰ぎながら、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の影響もあり、面会時間の短縮や制限をかけざるを得ないが、手紙や写真、窓越しの面会など、その関係性が希薄にならないように支援している。	家族と馴染みの食堂で食事をしたり、買い物をしたりと、外出を楽しむ利用者もいる。馴染みの場所に行けない利用者は、今まで自宅で行っていた、編み物や洗濯、字を書く、新聞を読む、読書するなど、慣れ親しんだ生活習慣を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や工作、体操やボール遊び、ぬり絵やプチプチ潰し、牛乳パックジェンガやおやつ作り等、一人ひとりの身体状況や興味関心に合わせて行うことで、利用者同士が関わり合い楽しめるような支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に悩みや心配事があれば、いつでも声をかけていただきたいことを伝え、退所後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴、習慣等をふまえながら、希望・意向を引き出せるよう心がけてコミュニケーションをとっている。	ここでどのように暮らしたいか、それぞれの利用者の思いを引き出している。生活の中で把握した利用者の情報は、申し送りノートやLINEを活用して職員で共有している。会話の困難な利用者は、生活歴をふまえ表情やしぐさを見て検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションの他、家族とお話する機会をもち、思い出話を伺うなど情報収集を行っている。入所時に家族にアセスメントシートを可能な範囲で記入していただき、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員からの情報、受診結果、介護日誌の確認、LINEで、情報収集を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画原案をたたき台にして、本人、家族、職員、主治医の意見聴き取り内容を調整している。	モニタリングは毎月実施し、職員の意見を聞き見直しを行っている。日々の記録やモニタリング、職員の意見聞き、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援経過記録にて、日々の変化、できごと、介助者の対応等を集約し、個々の課題の洗い出し、介護計画の見直し、検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の生活歴、習慣を再確認し、日々の支援の見直し、検討を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、社協、包括等の行政や、ボランティア、警察、消防等と必要とされる情報を共有し、利用者が安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の日々の身体状況を把握し、主治医と連携している。必要があれば訪問看護を利用し、異常の早期発見や現状維持に努めている。必要時には、歯医者に向いたり訪問歯科に頼ったりしている。	かかりつけ医の訪問診療と、訪問看護は月1回あり健康チェックをして、変化があれば、医師に伝えている。利用者の身体状況を診察し、指導を得ている。非常勤の看護師が日々の利用者の健康管理や緊急時の対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気づいたことや利用者の状態を看護師や主治医、訪問看護に伝え、相談している。職員間の申し送りや話し合いを重視し、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、必要な情報を関係医療機関に伝えている。又、退院される際には、情報共有を受け、適切な看護、介護ができるように連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の悪化や何らかの原因で食事摂取等ができなくなった段階を利用者や家族と早期の時点で話し合い、当施設でできることを伝え、希望により、看取りに向けた支援を行っている。	食事が食べられなくなってきたら、医師、家族と今後の方針を決めている。看取りを希望した場合は、今後の支援方法を、医師、看護師と相談して支援にあたっている。ここが第二の住まいとして、生活支援の一環として看取りを行い、家族が看取りに立ち会うこともあった。職員教育は、冊子や動画を参考で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居契約時に、緊急時、事故発生時の対応等を説明し、ご家族の理解が得られるように努めている。職員同士で報告連絡相談を行い、独断で動かないよう話している。いつ何時でも代表に連絡がつくようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導の下、火災や土砂災害を想定した避難訓練を行うことになっている。平日だと、地域の方やご家族様の参加が難しいようなので、今後は土日に行えるよう消防署や消防団と話し合っていく。今後は、応急救護訓練も取り入れていく考えている。	年2回、消防署立ち会いや地元の消防団の協力の下、訓練を行っている。対策マニュアル、備蓄は1週間の食料を用意している。災害時には地元の高齢者の受入れを考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持って対応している。トイレ誘導の際や排泄に失敗した時には、言葉遣いに気をつけ、困惑や羞恥心、不安な気持ちにならないよう、気をつけて接している。一人ひとりのペースを守り、急かすことのないよう、ゆったりとした支援を心がけている。	利用者や家族の思いを大切にし、利用者の良いと思っている事を守るようにしている。つよい言葉や羞恥心に配慮した言葉かけや対応に気をつけて、自分で選ぶことができる場面づくりをしている。受けとめる側の職員の受けとめかたについても話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望をさりげなく聞き、その思いがなるべく実現できるよう、寄り添い手を差し伸べている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや、どのようにその日を過ごしたいかをバイタルや表情、様子から早い内に汲み取り、利用者の意に沿った支援をしていく。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見た目も大切と考えているので、髪の設定や散髪、爪のお手入れは大切な時間としている。洋服等も本人の希望を聞き、好きな服を選んで着ることができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の農家の方や家族から差し入れていただく季節の野菜を使い、その方に適した量や好み、体調を鑑みて、職員が3食手作りをしている。時には、利用者の希望の献立にしたり、お弁当やお惣菜を取り入れたりしている。	利用者と一緒に献立を考え、週2～3回地元のスーパーへ食材を買いに行き、職員が3食手作りにしている。利用者に野菜の皮むきなど出来ることを把握し手伝ってもらったり、おやき、おしるこ、ホットケーキなどのおやつ作りイベントでは一緒に作ったりしている。テレビや新聞の料理をみて食べたいという希望があれば、作るようにして希望を叶えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事摂取量をそれぞれチェック表にして、職員間で情報共有しながら支援に当たっている。不足の時は、その都度、もしくはお茶の時間のおやつや飲み物で補う工夫をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、利用者本人にできる限り行ってもらい、難しい方には職員がサポートし、仕上げを行っている。夜は、入れ歯の方は入れ歯を預かり、入れ歯洗浄剤でつけ置き洗浄殺菌を行っている。毎朝、歯ブラシやコップのハイター除菌をし、天日干しをしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレに行き排泄ができるよう、日々の生活の中で、テレビ体操や手足の運動を無理の無いように音楽に合わせて行っている。個々の排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行っている。	基本的には、利用者の排泄のADL(日常生活動作)を職員で確認しながら、極力トイレでの排泄ができるよう支援に努めている。排泄チェック表で時間誘導したり、利用者の様子やしぐさを観察しトイレへの声掛けをしたりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄サイクルを理解し、きちんと排便を促せるよう日々の食習慣を工夫している。便秘予防としては、野菜中心に、食物繊維を含む食事と水分摂取を心がけ、牛乳、ヨーグルト、ゼリー、プリンやフルーツデザートを提供している。排泄状況に応じた軽い運動や排便のための薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴していただけるよう、声かけや誘導の工夫を心がけている。なるべく浴槽につかっていただけるように支援しているが、座位の保持が難しい方や浴槽につかれない方には温浴シャワーチェアを使い、安心して気持ち良く入浴できるように支援している。	入浴した時の気持ちよさを伝えながら誘導し、入浴中は職員とマンツーマンで話をしたり、歌を歌ったり、好みの入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯でリラックスしたりして、同性介助で入浴の時間を楽しめるようにしている。重度の方でも2人介助で浴槽に浸かれるよう安全に配慮し、入浴介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合ったペースにて、状況に応じ休息していただいている。室内は、環境整備を行い、リネン交換を定期的に行っている。室内温度は、窓やカーテンを開け調節したりエアコンを使用したりして、適温にて過ごし安眠に繋がるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表にて飲み忘れなどないか、他の人に渡していないか、お盆に乘せる際に確認し、配膳時にも確認をし、間違いが無いように何度も確認をしている。薬情報は個人ファイルに保管され、いつでも確認できるようにしている。変化が起きた時は、看護師や主治医等に相談し、指示のもと、動くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意なことを活かし、ぬり絵、折り紙、歌、パズル、のり付け、プチプチ潰し、洗濯物干し、洗濯物たたみ等をしながら、家族の話や昔話に花を咲かせている。自然と笑顔が出て、会話が弾むよう個々に合わせた声かけや支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	風邪やインフルエンザ、コロナ等でなかなか出かけられなかったが、昨年は地域の文化祭に出かけ、ダンス・踊り・歌を見に行くことができた。体調の良い時は、近くにコンビニやスーパーに嗜好品を選んで購入支援をしている。家族の協力の下、病院や外食をしている方もいる。これからも、地域の方やご家族様とも協力しながら支援している。	天気の良い日には、外で歌を歌いながらお茶やおしゃべりを楽しめる機会を作っている。近くのコンビニエンスストアやスーパーマーケットへ買い物に行く。また、家族と外食や買い物、住んでいた家を見に来る利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時折、気分転換も兼ねて、道の駅やコンビニでご自分の嗜好品を楽しんで買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常の生活の写真を撮り、はがきに印刷し、できる方には文字を書いていただき、難しい方には代筆し、送付することで利用者の気持ちに添えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日の当たる玄関にはソファが置かれ、くつろぎながら四季折々の草花が眺められるようになっている。日に3度、台所から料理の香りが漂い、その日の献立を想像させられる。トイレが汚れた際には、その都度清掃を行い、臭いのない清潔なトイレを心がけている。ホールには誕生日会や行事などの写真を貼ったり、季節の行事には、利用者と職員が協力合せて、手作りの装飾品を作ったり、利用者の編んだ作品を飾ったりしている。天井は吹き抜けの天窓で、明るく心地よい場になっている。	厨房がホールに面していて、調理が進むと、香りに誘われる場所となっている。手作りの大きな日めくりカレンダーやテレビ、新聞で、時の流れを確認できる。玄関内に置かれたソファに座り、外の景色を眺めることもできる。消臭剤でホール内の匂いに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士の座席配置になるようにテーブル席を工夫している。ホール、玄関ソファ、居室を好きな時に好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、利用者本人が愛用されていた家具、小物、好みの衣類、写真を居室に備え付けたり、使い慣れた寝具を持ち込んだりして、居心地良く過ごせるよう工夫している。	持ち込みの制限はなく、入居時に家族と一緒に自宅で大切にしていた、手作りの編み物や本、そして家族写真などの思い出の品々や馴染みの物を持ってきたり、自宅で使っていた椅子やタンスなども置かれ、その人らしい居室になっている。仏壇を置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、手すりが取り付けられている。ホール内に設置している家具は、角が丸い物を選び、設置している。居室の入り口には、動物や乗り物のネームプレートを使い、大きな文字のトイレ案内等、分かりやすいように工夫している。歩行や移動が安全にできるように、動線を考え空間を広くとる配慮をしている。家事的な手伝いをするにより、自分にもできることがあるという自信や自立に繋がっている。		